

道徳学習資料 平成27年10月編

よい道徳授業のイメージ

明確なイメージがよい授業につながる

先生方は、「よい道徳の授業」について、どのようなイメージを持ってみえるでしょうか。

A5判の次の用紙に書いていただきました。

<p>道徳の授業に関する意識調査</p> <p>お名前 ()</p> <p>(問い) 道徳の授業により授業と悪い授業があるとすれば、先生が考えられる「よい道徳の授業」とはどのような授業をイメージされていますか。先生のお考えを書いてください。箇条書きで構いません。</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>ご協力ありがとうございました。(矢北小 石井)</p>

あえて3行の用紙にしたのは、日頃、先生方が抱いてみえる道徳の授業に関する直感的なイメージを知りたかったからです。

矢作北小学校の28人の先生方に答えていただきました。

- 1 子供たちが生活の中で身近な話題を取り上げて教材とする授業
- 2 子供の考えを揺さぶる授業
- 3 学級のすべての子供の意見が反映される授業
- 4 子供が実感を持って取り組める授業
- 5 型にはめず、子供が自分で考え、授業が進んでいく授業

子供にとって分かりやすく切実感のある資料を用いて、資料に関連した子供の疑問を基に授業が進められていく様子。次々と意見が発表され、発表された意見を先生が丁寧に聞き取り、時として問い返したり、他の子供の考えとかかわらせたりして、一つの方向性を見出す。話し合いを深めるなかで子供たちの考えをより確かなものにしていく様子が伝わってきます。華々しい授業がイメージできます。

別の先生方からは、次の回答をいただきました。

- 6 高い価値や自分が気付いていなかった価値に気づき、その価値が心にストント落ちる授業
- 7 自分のことを反省し、自分ならどうしようと考え、自分の対処の仕方が分かり、自分もしてみようと思う授業
- 8 教師の押し付けでなく、伸び伸びと自分の思いを出せる場が保障され、資料の話し合いを通して、道徳的価値に気付いたり、考えを深めたりして目からウロコの落ちる思いを実感できる授業
- 9 全員で考え、話し合う中で変容があり、子供たちが「～してみよう」とよい方向に向かおうとする考えの持てる授業
- 10 子供のさまざまな価値観がぶつかり合うことで、よりよい価値観を生み出し、新たな価値を共有していくことができる授業

6の先生は「高い価値への気づき」「納得」、7の先生は「自己の振り返り」と、今後の生活における「自己課題の明確化」「実践への意欲」をよい授業の条件として考えてみえるようです。10の先生の場合は、互いの持つ価値観が異なり、考えが対立してしまった場合に、そのままにするのではなく、さらに深く話し合わせ、互いの立場を尊重しながら折り合いを付けさせる中で、新たな価値を生み出そうとする取り組みをイメージしてみえるものと想像できます。6から10の先生方の回答には、「価値」「自己の振り返り」「実践化」などの記述があります。

1から5の先生方は主に学習活動を、6から10の先生方は主に授業の活動内容を中心に考えてくださったものだと考えます。実は、この調査、教科領域指導員の先生方にも協力していただきました。

道徳的な価値について自分の状況をじっくりと考える場面が設定され、教師の的確な指導で話し合いを通して本時のねらいとする価値に関する新しい考え方を知ることのできる授業

指導員の先生方の回答を見ると、上の例のように授業の学習活動と活動内容の両方に触れる回答ばかりでした。授業に関する高いスキルや授業作りに対する厳しい目を持つてみえる先生方です。教科を超えてしっかりとした授業イメージをもってみえます。

ちなみに、よい道徳の授業として挙げられた要素を回答の中から抜き出し、その回答をした人の数を数えてみました。

●よい道徳を支える学習活動の要素		
	矢北小	指導員会
1 話し合い活動	12人	12人
2 考える活動	5人	6人
3 自分の考えの発表	4人	5人
4 主体性を生かす展開	2人	1人

学習活動については、両者が同要素・同順位でした。道徳の学習活動の中心は、話し合いと考える活動でした。ところが、活動内容を見ると、矢作北小職員と指導員会では、重視された項目が微妙に異なりました。矢北小で一番多かったのは、「価値の理解・納得」で

●よい授業を支える活動内容の要素		
1 多様な価値との出会い	12人	
2 自己課題の明確化	12人	
3 高い価値への気づき	8人	
4 実践への意欲	8人	
5 自己の振り返り	7人	
		(指導員会)

した。指導員1位の「多様な価値との出会い」を選んだ先生は矢北小では4人でした。学習指導要領の道徳科の目標は、次のようになっています。

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己(人間として)の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。 ※()は中学校学習指導要領

「物事を多面的・多角的に考える」とは、多様な価値観の存在を前提として授業を仕組み、授業を通して様々な感じ方や考え方に合わせて、価値の多面性に気付かせることだと考えています。私は、価値だけではなく、自己認識や他者認識の学びの第一段階として、「多様な価値との出会い」は重視したい要素だと考えています。ちなみに、私はよい道徳の授業として、次のイメージを抱いています。

- ・ねらう道徳的価値に関して今まで知らなかったことを学ぶことができる授業
- ・話し合いを通して、本時でねらう価値に関する多様な考え方や見方、行動の仕方を出し合える授業
- ・出された考え方などの中で、最も高い価値に基づくものがどれかを子供の同士で話し合うことで明らかにでき、子供同士で共有できる授業
- ・高い価値に基づく行為を実践したいという思いや意欲を持つことのできる授業

授業の中で、本時で取り上げる価値に関する選択肢をたくさん引き出し、最も望ましい判断や行為を明らかにし、実行に移すための自分の課題を明らかにする。これが私の考えるよい道徳授業のイメージです。どのイメージがよいのか、どれが実現可能かの判断はお任せします。ぜひとも授業に生かしてください。